

租税正義の実現と関与先企業の発展に貢献する税理士

平成30年10月19日(金)に、リーガロイヤルホテル東京において「TKCタククスフォーラム2018」を開催いたしました。

550名を越す多くの皆様にご来場賜り、無事に終えることができました。主催者を代表して、共催の公益財団法人租税資料館をはじめ、後援していただいたTKC全国会並びに講演等をお引きいただいた皆様のご支援・ご協力に深く感謝申し上げます。

今回のタククスフォーラムは、TKC全国会の創設者である飯塚毅博士の生誕百年を記念する催しとしてプログラムを企画しました。

第1部は、飯塚毅博士に縁のあるTKC関東信越会の研究グループの皆様による「税理士の職務とリーガルマインド——要件事実論の実務への展開」と題した研究発表でした。要件事実論の考え方を学ぶことにより、税理士の職務に不可欠なリーガルマインドが身につくこと、税理士の日常業務(税務調査対応や書面添付)に要件事実論がいかにか活かされるのかについての検証を披露されました。

第2部は、佐藤英明慶應義塾大学大学院教授による「最高裁判決から見た租税法の解釈適用」と題した講演でした。租税法は侵害規範であるから、納税者の予測可能性を重視し、その解釈は原則として文言解釈によるべきであるといわれる点について、現在の最高裁の立場をどう理解すればよいのかを、「判例の変遷」にも留意しつつ、具体的な判決を通じた検討を整然と解説していただきました。

第3部は、坂本孝司TKC全国会会長による「飯塚毅博士の『正規の簿記の諸原則』論——その歴史的位置づけと現代への提言」と題した講演でした。「正規の簿記の諸原則(GoB)」研究の意義と飯塚毅博士の「三重構造説」の検証から、更には「学際研究の重要性」、「先学を越えよ」、「法の社会形成力を重く見よ」という飯塚毅博士のメッセージを分かりやすく解説していただきました。

第4部は、飯塚毅博士のご子息である飯塚真玄TKC全国会最高顧問による「飯塚毅博士の職業的使命感はどこから生まれたのか?」と題した講演でした。職業会計人として「租税正義の実現」に最高の価値を置く飯塚毅博士の職業的使命感の源泉について、博士の生い立ちや考え方に纏わる様々なエピソードや戦前・戦中・戦後の歴史的事実を踏まえながら丁寧に解説していただきました。

結びにあたり、TKC税務研究所といたしましては、今後とも、「租税正義の実現」と「関与先企業の成長・発展」に貢献する税理士の皆様のために些かなりともお役に立てるよう努めてまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。